

## 地域 ORC 第 1 研究班 2004 年度第 2 回研究会記録

日時：2004 年 6 月 5 日（土）10:30 - 11:30

場所：京都市左京区南禅寺草川町 無鄰庵 2 階母屋

出席者：白石克孝（龍谷大学 法学部 教授）

新川達郎（同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授）

資料：今年度の調査と 2004 年度研究会日程、アウトプットについて（レジュメ）

議題：1．2004 年度の調査・招聘、研究活動の年間予定について

2．熊本県宮原町岩本氏招聘と調査地としての可能性の検討

3．東京農工大 COE、LORC 共同プロジェクト、シンポジウムについて

白石：7 月中旬予定していた、リバプールの地域再生と EU 構造基金、地域戦略パートナーシップ（LSP）について、招聘要請難航中。オランダシンポの前後（11 月始め or 11 月末）に変更の可能性が高い。

その代わりとして、宮原町、岩本氏の招聘（7 月）について、講演と国内調査地としての可能性について LORC 全体として検討する。

イギリスを中心としてアメリカの比較対照しながらガバナンスにむけての参加協働を議論していく。その中で、日本のこともやらなくてはならない。

日本の中での問題として、オープンリサーチセンターとして 2, 3 班を中心に社会実験的に実際に仕事をやっているところとの往復、実験をやらなくてはならないという前提で一班が含まれている。次の運営会議で決めなければならないことではあるが、一班としてもいきなりに二班が研修プログラムを実施するのではなく、参加や協働の未来像について 1 班として参加や協働のディスカッションを自治体とすることが必要。それによって研修プログラムを実施。それで反応しそうなところについて議論を考えている。たまたま宮原の名前が挙がった。もしこれで行うなら、サスティナブル・コミュニティーを日本で実践している人との交流が可能になるだろう。

日本との関係をどうするかということで、話を進めようとしていることがある。農工大が幹事校で中山間地域、農業における、バイオマスの利用でまちおこし実験の COE を実施中。農学部、工学部のジョイントで、現在、岩手と山梨をフィールドに活動。LORC とのジョイントによる新しい試みを検討中。COE は箱物や技術は持っているが、参加のデザイン、社会的な適切なコストを考えていない。

こちらからは、コミュニティインパクトのあるものにしないと、施設を持ってくるだけの話になる。役場のあり方を変えるとすれば参加協働型のデザインをしないと施設を呼ぶだけ、助成金を取るだけでよくないと提言してきた。

このプロジェクトを日本グラウンドワーク協会事務局福井さんがコーディネート。

LORC と COE とジョイントでシンポを開催について、農業経済学千賀氏と白石を計画している。ニセコにも参加してもらう予定。

このジョイント企画の経緯について、農工大 COE にて話す機会があった。水俣の吉本氏など、町おこし、環境系などの人々、お互いに交流する機会がなかったとのこと。交流したいという希望はあるが、町おこし、環境系ではイベントがないのが現状。お互いの話を聞く機会を作ることになった。

実践の現場と COE のアイデアと、LORC の参加共同のイメージとをぶつけることで、日本でどうローカライズできるのか、機会をどう使うのかなどみんなで話し合う。来年 1 月にシンポジウムを予定しており、準備書を提出してもらったところ。三重県が招致したいとのことで、三重県の開催する方向。政策開発研修センターが乗り気になっている。かなりよいものができると思う。

自分の思いとしては、国際環境自治体連合（イクレイ）日本事務局を間に挟ませて、（グランドワークジャパンと同じよう講演の協賛の名前につらねてもら）にも参加要請する。イクレイは、自分のところの会員以外の人たちとつながりがない状況。また昨年、（イクレイの）サステナブル・ディベロップメントに向けたローカルアクションの一連の文章に一章書いた（白石翻訳）。ヨーロッパのサスティバブル・シティーアンドタウンキャンペーンのオルゴウ憲章の翻訳冊子がでているのでみんなに見てもら形で、参加や協働のデザインを、環境をテーマにしている人たちが多いので、環境のサスティナビリティの実現にむけてという切り口で、シンポ開催をしたいと思っている。それについて意見や内容について聞きたい。

リバプールとドイツは日程の問題だけなので、調節して実現させる。

問題は、忙しくなることを我々が乗り切れるかということ。

LORC や COE みたいなのがないとシンポをやっても経費がでない。LORC と COE それぞれで講演者の交通費負担という形になるだろう。三重県の企画として組み込まれたら、三重県からも予算が下りる可能性がある。国際シンポのようなことに予算的には通る企画である。時間的に原稿を書くことができるかという問題があるが。しかし、正式印刷物ではなくタイプ印刷の形式になるだろう。

企画準備はスタッフがいるのでできるが、問題は来年度以降（3 年目から）のことすこし方向性や成果を一班として理念的に調査してまとめとは別に何かできれば。

新川：具体的な社会実験にむすびついていけばよいが。

白石：それをわれわれ後半 3 年間の主要プロジェクトのひとつとして位置づけるかどうか。構成員（関わり方）を聞いていると具体的かつ魅力的。

新川：農工大 COE とどうゆうふうに関係をつくるか。難しいところ。

白石：個人的にはつながりがある。LORC との関係は昨年からある。予算としての問題で、文部科学省の問題があるかも。

白石：理念的な部分を、4 班とのかかわりでどうまとめるかアジア・アフリカの発展のイ

メージと1班の発展のイメージ、参加型のアプローチをひとまとめにするのと、COEとの連携で日本国内での社会実験を行う。1班としても日本での研究を行う必要がある。COEがどこで実験をやるのかわからない。候補地は山梨、岩手、三重。

新川：メインはバイオマスでいいか、どのようにつなげていくか。

白石：お互いが具体的に議論しているわけではない。企画議論をしている最中。1月シンポの前に数回話し合う必要がある

新川：1班としては進めていく方向でいいのではないかと。シンポの内容も次年度以降につながるようにする。

白石：企画を立案する中心メンバーが集まる必要がある。三重県に提案してみる。また、社会実験の中身を、LORCでつめる必要がある。シンポ前の事前の構想をつめるための会議をしなければならない。7月に東京で一度会議コンセンサスをもつ。そして、三重県に提案。

宮原町の件については、岩本氏に白石が個人的に会いディスカッション(7/7)、研究会とするよりコアメンバーのブレインストーミングという形にする。

東京農工大COEに会議開催を打診する。新川さんの予定は、いつがいいか。

新川：7月2, 3日, 9日, 10日, 12日。普段は、金曜の昼間は比較的時間が取れる。

白石：東京での会議では、どのような企画で開催するかを話し合う。お互いの問題意識を確認する。第1回研究会で、日本の比較をいれないと発表したけど、調査をいれる必要はないが各自で日本の調査を実施することとなった。最終的には日本とのかかわりをどうするのかを議論しなければならない。その部分をどうするのかというのが宿題になっている。

新川：熊本(宮原)の話はどうか。

白石：こちらから連絡する。7日午前には個人的に会うか、LORC側で数名募り食事をしながら話をさせてもらう。問題は、アウトプットの話。ワーキングペーパーや関心領域に関するレジュメを提出してもらい、研究員の情報共有する(26日決定)。宮原に関して、辻本が研究対象として調査に入るのであれば、研究員とともに実施してもよい。

辻本：宮原は、参考事例として紹介するが、研究対象ではない。

以上